



心の時代



私は長年自転車を愛用しています。昔から黒のジャガーと呼んでいますが、皆さんが俗にいうママチャリです。保護者様のなかに自転車屋さんがいましたのでそこで買わせていただきましたが、営業を終了された関係で今では近所の自転車屋さんにお問い合わせいただいています。先日、自転車がパンクをしましたので見ていただきました。そこのご主人とも十年来のお付き合いになります。八十歳を越されていてもかくしゃくとされています。息子さんと二人で店を営まれています。

「今日はどうした?」「パンクです」「そう。そこに置いて」そんな短い会話の後、私はパンクの修理をするご主人の姿を後ろから眺めていました。その日は三十五度を超す猛暑日でしたが黙々と仕事をされていました。チューブを取り出す音、ペンチを床に置く音、そういう音に静寂さも感じてきます。愛想はありませんが、無駄口は叩かずに訊かれたら丁寧に受け答えをしていただく。その背中越しの姿に職人を感じさせてくれます。人生の生き方は背中越しに出るということを読んだことがありましたが、まさに職人の生きざまを感じます。

パンク一つにしても実に入念に調べて、そしてその原因をお話ししてくださります。修理をした後「チューブの裏が黒くなっているだろう。これは空気が少なかった証拠なんだよ」と話をしてくれました。「ああ、この人は自転車が本当に好きなんだなあ」とひしひしと伝わってきました。「好きで半人前、楽しんで一人前」という阪急創設の小林一三さんの言葉が蘇ってきました。

三年前から腰を痛め、膝にも痛みがでて歩行に困難が生じました。痛みをこらえながら歩いています。いろいろな治療も行いましたがなかなかうまく治りません。街で見かけたストレッチのお店に寄ってみました。二十代の女性で金髪、ピアスをたくさん空けた方でした。どうも私の偏見で、やっていただくならベテランの男性のイメージがありましたので「しまった。仕方がないな」と思いながらお願いをしました。ところが彼女は高校時代、じん帯を断裂しスポーツが出来なくなり専門学校でリハビリやストレッチを学び、現場で三年の経験がありました。膝がよく曲がらない理由を説明していただき、どうすれば改善できるのかを話をしてくれました。実は右肩も上がらなかったのですが返るときには右肩は稼働し始めました。それから毎週のように通いはじめました。これまで多くの整体、針、指圧等も行ってきましたが、膝が痛いながら少しずつ曲がるようになり歩行の際の痛みが和らいでくるではありませんか。終了後には痛みの因果関係と治療の進行具合、今後どうしたらいいのかを話してくれます。

原因と結果の因果関係を説明し、それを改善するのにはどの位の期間がかかる。そして「今日はこれが出来るようになる」という話は全く私たちの仕事と同じなんだなあと改めて感じました。現場での塾生との向き合い方の見直しをしなければと肝に銘じました。

私達の仕事も職人です。生徒がどうやったら理解してもらえるのかという永遠のテーマに日夜取り組んでいます。そのための教材研究、教材作り、教え方研修といくらやっても終わりはありません。ただ言えるのはこの仕事が好きで、楽しいということです。夜中まで生徒一人一人のことを語り、悩むのは今も昔も変わりはありません。

ひざを痛めてからご主人のお店で電動自転車を購入させていただきました。その時、笑顔で「バッテリーはゼロ近くになってから充電すること」と新しい自転車をなでながら笑顔で話をしてくださいました。背筋をピンと張られて仕事をされる姿は仕事に対する気持ちとプライドを感じました。まだまだ体のあちこちが痛いのだろうと言ってはいただけないと思った次第です。